株式会社ウェルサイクル環境経営レポート

活動期間　2023年　10月1日～2024年　9月30日

作成日　2025年1月

目　　次

1.　組　織　の　概　要

⑴　～　⑾　… 1～4

2.　環　境　経　営　方　針　… 5

3.　環　境　経　営　計　画　… 6

4.　環　境　経　営　目　標　… 7

5. 環境経営目標の実績とその評価、次年度の取組み課題　… 7

6. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結　… 8

7. 代表者による全体の評価と見直し　… 8

1.　組　織　の　概　要

⑴ 事業者名　株式会社　ウェルサイクル

⑵ 所在地　本社工場　長野県上田市天神３－１１－４０

長野出張所　長野県長野市東和田７１８－１　１Ｆ

⑶ 代表者　代表取締役副社長　小山　和彦

⑷ 環境管理責任者　業務係長兼エコアクション推進室　宮本　一幸

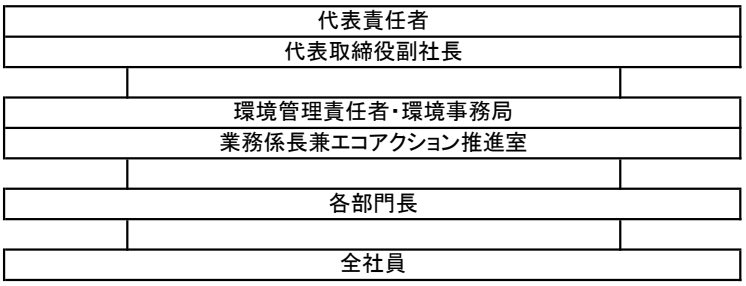
⑸ 連絡先　TEL　0268-26-1820　FAX　0268-26-1840
E-mail：ito-m@bz04.plala.or.jp
HP：http//wellcycle.jp

⑹ 事業活動内容
・一般廃棄物収集運搬業、一般廃棄物処分業
・産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業

⑺ 事業規模
・法人設立年月日　平成13年10月19日
・資本金　1千万円
・2024年度売上高　752百万円
・従業員数　62　名

⑻ 認証登録範囲　全組織・全活動

⑼ エコアクション21　組織図



⑽ 役割・権限

代表責任者	・環境経営における全責任
	・環境方針の決定と社員への周知
	・全体の評価と見直し
環境管理責任者 環境事務局	・EMSのPDCA
	・各部門長への声掛け等
各部門長	・環境管理責任者の補佐
	・各部門の社員への声掛け等
全社員	・環境方針等を理解し、取り組む
	・安全作業、安全運転の励行

⑾ 許可の概要

① 事業活動に関する許可一覧

許可の区分	行政区分	許可番号	許可年月日	許可の有効期限
産業廃棄物処分業許可	長野県	2021097948	H26.2.17	R11.2.16
産業廃棄物収集運搬業許可	長野県	2011097948	H24.8.21	R9.8.20
	新潟県	01509097948	H23.9.2	R8.9.1
	群馬県	01000097948	H23.9.13	R8.9.12
一般廃棄物処分業	上田市	2002	H27.4.1	R7.3.31
搬一般廃棄物収集運業許可	上田市	1101	H27.4.1	R7.3.31
	東御市	指令4生環第109号	H27.4.1	R7.3.31
	小諸市	指令第390号：9	H27.4.2	R7.9.23
	長野市	10135	H26.4.1	R8.3.31
	中野市	指令４第260号	H26.4.1	R8.3.31
	坂城町	指令20坂住第24-1号	H26.4.1	R8.3.31
	青木村	青環衛第22号	H27.4.1	R7.3.31
	長和町	R6ー13	R6.5.20	R8.5.19

② 産業廃棄物処分業許可　事業の範囲（中間処理）

種類＼処理方式	破砕	圧縮	圧縮梱包	切断	溶融固化
廃プラスチック類	○		○		
木くず	○		○	○	
金属くず　＊1	○				
金属くず		○			
ガラスくず	○				
コンクリートくず及び陶磁器くず	○				
がれき類	○				
紙くず			○		
繊維くず			○		
廃プラスチック類　＊2					○

*1・・・磁気ディスク装置、光ディスク装置その他の記憶用電気機械器具に限る。
*2・・・廃発泡スチロールに限る。

③ 産業廃棄物収集運搬業許可　事業の範囲

取り扱う産業廃棄物の種類（特別管理産業廃棄物を除く。）	積替保管	＊○：取り扱うもの　◎：積替え又は保管行為を含むもの			
		石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品産業廃棄物	水銀含有ばいじん等	自動車等破砕物
燃え殻	－	－	－	－	－
汚泥	有	◎	◎	－	－
廃油	－	－	－	－	－
廃酸	－	－	－	－	－
廃アルカリ	－	－	－	－	－
廃プラスチック類	有	○	◎	－	－
紙くず	－	－	－	－	－
木くず	－	－	－	－	－
繊維くず	有	－	－	－	－
動植物性残さ	－	－	－	－	－
金属くず	有	－	◎	－	－
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	有	◎	◎	－	－
鉱さい	－	－	－	－	－
がれき類	有	◎	－	－	－
ばいじん	－	－	－	－	－

④　積替え又は保管を行う産業廃棄物の種類と、保管上限及び保管面積、高さ上限

取り扱う産業廃棄物の種類	面積	保管上限	高さ上限
汚泥（石綿含有産業廃異物を含む。）	4.84㎡	4㎥	－
廃プラスチック類	77㎡	85.05㎥	１．９m
繊維くず	13.5㎡	8㎥	－
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	13.5㎡	8㎥	－
がれき類	13.5㎡	8㎥	－
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の混合物（石綿）含有産業廃棄物を含む。	13.5㎡	8㎥	－
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物（水銀使用製品産業廃棄物を含む。）	5.4㎡	1.4㎥	－
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物（水銀使用製品産業廃棄物を含む。）	5.4㎡	1㎥	－
汚泥、金属くずの混合物（水銀使用製品産業廃棄物を含む。）	0.72㎡	0.4㎥	－

⑤　産業廃棄物中間処理施設の種類、処理する廃棄物の種類及び処理能力

施設の種類	廃棄物の種類	処理能力
破砕施設　い	廃プラスチック類	36.96t/日（4.62t/h：8時間稼働
	木くず	36.8t/日（4.6t/h：8時間稼働）
破砕施設　ろ	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	4.5t/日（0.566t/h：8時間稼働）
	がれき類	4.5t/日（0.566t/h：8時間稼働）
破砕施設　は	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	4.48t/日（0.56t/h：8時間稼働）
圧縮施設	金属くず	35.52t/日（4.44t/h：8時間稼働）
圧縮梱包施設	廃プラスチック類	16t/日（2t/h：8時間稼働）
	紙くず	25.12t/日（3.14t/h：8時間稼働）
	木くず	37.28t/日（4.66t/h：8時間稼働）
	繊維くず	19.92t/日（2.49t/h：8時間稼働）
切断施設	木くず	7.2t/日（0.9t/h：8時間稼働）
破砕施設　に	廃プラスチック類	0.128t/日（0.016t/h：8時間稼働）
	金属くず	2.016t/日（0.252t/h：8時間稼働）
溶融固化施設	廃発泡スチロール	0.184t/日（0.023t/h：8時間稼働）

⑥　産業廃棄物の処理実績（受託した産業廃棄物の処理量）

収集運搬量	中間処理量	最終処分量
1748,85t	3412t	915，43t

⑦　一般廃棄物処分業許可　　事業の範囲

・事業の区分

一般廃棄物の処分

破袋、選別、圧縮、梱包、破砕（保管を含む）

・一般廃棄物の種類

紙くず、木くず、繊維くず、廃プラスチック類（容器包装リサイクル法適用プラスチックを含む）、金属くず、ガラスくず、陶磁器くず、スプレー缶及びライター

⑧　一般廃棄物の積替え施設の面積及び保管上限

廃棄物の種類	保管場所面積	保管上限
資源物（ビン）	４０，２６㎡	４４㎥

⑨ 一般廃棄物中間処理施設の種類、処理する廃棄物の種類及び処理能力

施設の種類	廃棄物の種類	処理能力
破袋機及び手選別コンベア	不燃ごみ	4.5t/日(5時間稼働)
破砕施設　い	廃プラスチック類	36.8t/日(8時間稼働)
選別圧縮梱包施設	廃プラスチック類	13.84t/日(8時間稼働)
圧縮施設	金属くず	35.52t/日(8時間稼働)
空き缶プレス機	金属くず(空き缶)	4.8t/日(5時間稼働)
スプレー缶及びライター等破砕機	スプレー缶及びライター等	0.57t/日(8時間稼働)
破砕施設　ろ	ガラスくず等	4.5t/日(8時間稼働)

⑩ 廃棄物処理工程表

廃棄物の種類	処理方式	中間処理後
紙くず	圧縮梱包	再生、焼却
繊維くず	圧縮梱包	再生、焼却
廃プラスチック類	破砕	安定型埋立
	圧縮梱包	再生
	溶融固化	売却
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	破砕	再生、安定型埋立
がれき類	破砕	再生、安定型埋立
金属くず	破砕	売却、再生
	圧縮	売却
木くず	切断	売却
	破砕	売却、再生

⑪ 収集運搬車両の種類と台数

免許の種類 / 種類	普通	準中型	中型(8t)に限る	中型	大型
キャブオーバー	2	1	1		
ダンプ	1	3	1		1
脱着装置付き コンテナ専用車		3	2	1	3
塵芥車		11	1	1	

2. 環 境 経 営 方 針

環 境 経 営 理 念

株式会社ウェルサイクルは廃棄物を創意無限の技術や知恵で、資源として分別・再生し、
地球環境に貢献します。そして、次世代に為に安らぎと潤いのある環境を目指します。

行 動 指 針

1. 当社に適応される環境に関する法規等を遵守する。

2. 環境経営目標・環境活動計画を定め、継続的な改善に努める。

3. 一般廃棄物排出量を削減する。

4. 二酸化炭素排出量を削減する。

① 工場内廃棄物中間処理施設・事務所の電気使用量を削減する。

② 収集運搬車両・工場内重機類の燃料使用量を削減する。

5. 水の使用量を削減する。

6. 受託した廃棄物の再資源化を推進する。

7. 社員全員に活動内容を周知徹底する。

2013年4月18日　制定
2024年1月31日　改定

代表取締役　副社長　小山 和彦

3. 環境経営計画

＜取り組みの具体的な内容＞

【全社員】

・ 休憩所、事務所の節電

・ 一般廃棄物の分別を徹底し、排出量を削減

・ 水道水の節水

【収集運搬部・営業部】

・ エコドライブ、安全運転の徹底

・ 収集ルートの効率化

・ 洗車時の水量の適正化

【事務部・業務部・営業部】

・ 書類の電子化の推進

・ 裏紙使用

・ 特定非営利活動法人への支援活動の継続（社会貢献）

【工場部】

・ 中間処理施設の節電

・ 重機類、ショベルローダー等の安全運転の徹底

・ バイオマス発電用木質燃料チップの生産量の安定化と品質の保持

・ 中間処理施設での適正な水使用

4. 環境経営目標

項目	単位	2022年度		2024年度	2025年度	2026年度
		基準値	基準値比	98%	97%	96%
電気使用量	kwh	155,025	目標値	151,925	150,374	148,824
	kg-co2	71,157		69,733	69,022	68,310
運搬車両・重機類・自動車の燃料使用量	ℓ	129,654		127,061	125,764	124,468
	kg-co2	332,179		325,535	322,214	318,892
CO2総排出量	kg-co2	416,987		408,648	404,478	400,308
水使用量	m3	831		814	806	798
一般廃棄物排出量	kg	347		340	337	333
木屑チップの生産量の安定化	t	2,684	基準値比	100%前後	100%前後	100%前後
			目標値	2.684前後	2.684前後	2.684前後
社会貢献	—	活動の継続		活動の継続	活動の継続	活動の継続

※中部電力の二酸化炭素排出係数は0.459kg-CO2/kWhを使用しました。

5. 環境経営計画の実績とその評価，次年度の取組み課題

・ 実績とその評価

項目	単位	2022年度	2024年度	2024年度	評価
		基準値	目標値	実績値	
電気使用量	kwh	155,025	151,925	158,142	×
	kg-co2	71,157	69,733	72,587	
運搬車両・重機類・自動車の燃料使用量	ℓ	129,654	127,061	137,116	×
	kg-co2	332,179	325,535	351,506	
CO2総排出量	kg-co2	416,987	408,648	430,390	×
水使用量	m3	831	814	883	×
一般廃棄物排出量	kg	347	340	324	○
木屑チップの生産量の安定化	t	2,684	2,684	2,643	○
社会貢献	—	活動の継続	活動の継続	活動の継続	○

・ 次年度の取組み課題

項目	目標等の変更の必要性		次年度の取組み課題
電気使用量	□ 有	■ 無	処理施設の稼働率が良好なため目標未達だが、来年度の経過を見守る。
燃料使用量	□ 有	■ 無	車両数の増加のため来年目標未達だが、来年度の経過を見守る。
水使用量	■ 有	□ 無	トイレ増設のため、来年度は目標を前年度に変更する。
一般廃棄物	□ 有	■ 無	特になし.。
木質チップ	□ 有	■ 無	生産量は安定化できているので持続していく。
社会貢献	□ 有	■ 無	特定非営利活動法人との関係を継続していく。

6. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規制等の名称	遵守状況
廃棄物処理法	○
騒音規制法	○
振動規制法	○
NOx・PM法	○
消防法	○
悪臭防止法	○
グリーン購入法	○

上記の環境関連法規制等について、過去三年間違反及び訴訟はありませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し

エコアクションに取り組みいよいよ継続10年目の節目を迎えました。

9年目は、電気使用量、燃料使用量、水使用量の目的は達成されませんでしたが、前年度より減少したことが良評価となりました。

その他についても若干ですが減少し、目的が達成しております。

木質チップについては発生量の減少により減となりましたが、目標はクリアしました。しかし能登半島震災の協力が未だ要請もなく関われないことについて、残念でありません。

燃料については国の補助がなくなり、使用量が減っても中東やウクライナ情勢により価格が高騰し、経営を逼迫指せる事は避けられない状況になってきました。

よって、今以上に車両管理や作業管理に力を入れてゆく事になりそうです。

国が進める働き方改革に合致するよう努力をしてきましたが、管轄官庁の市民サービスの一巻を担う業務形態のため、土曜、祭日と交代での勤務となっており、社員の確保が重点課題としてあります。

今年度は木くずの破砕施設として新しい設備を増設する予定で、建廃と生木の処理を完全に分け、行先の安定化や使用範囲の拡大をより図る計画をしております。

また、福利厚生でもできる限り新規社員が来やすく応募していただけるよう充実したものを検討し、人材確保を強化しようと思います。

どこの会社も事業承継が悩みの種となっていますが、スムーズに継承できるような会社経営を常に模索し、魅力のある会社作りをしてゆければと思います。